



父はよく母の枕辺に  
腰を下ろして何か話していた。  
野の花が好きだった母に父は  
どこからか小さな花を  
もって来てうれしそうに  
見せていたこともある。

(六女・金子梅子「父母の思い出」)

これまであまり注目されてこなかった、  
世界的哲学者の人生の同伴者・寿美。  
その生涯と家族のエピソードを紹介します。

企画展

枕辺の野花  
西田幾多郎の妻

# ことみ 寿美



令和3年 3/23(火) ~ 9/26(日)

※新型コロナウイルス感染症対策のため、  
会場ではマスクの着用、手指の消毒、  
検温にご協力をお願いいたします。

企画展関連イベント

講演会 「幾多郎とかほくの女性たち」

一寅三(母)、寿美(妻)、高橋剛(妹)・ふみ(姪)  
幾多郎をとりまく、かほく市出身の女性たちを紹介します。

【とき】4/24(土) 13:30~15:00

【ところ】哲学館ホール 【要申込/参加費無料】

【講師】哲学館館長 浅見 洋

青空講座 「幾多郎の短歌と植物」

一数多くの短歌を残した幾多郎。短歌にちなんだ植物の前で、  
幾多郎が詠んだ歌やその背景を紹介します。

【とき】5/20(土) ※幾多郎と寿美の結婚記念日 13:30~14:30  
8/3(土) ※寿美の納骨にふるさとを訪れた日 16:00~17:00

【ところ】哲学の杜 【雨天中止/定員各20名/要申込、先着順】  
【協力】幾多郎の歌の風景を楽しむ会 (各1ヶ月前から受付)/参加費無料

会期中 2F・喫茶テオリアにて  
レアチーズケーキいちじくジャム添え  
..... 350円

亡くなった寿美の納骨のため  
久しぶりに訪れたふるさとで、  
幾多郎が詠んだいちじくの短歌。  
これにちなんだ特別スイーツです。



石川県  
西田幾多郎記念哲学館  
Ishikawa NISHIDA KITARO Museum of Philosophy

〒929-1126 石川県かほく市内日角井1  
TEL (076) 283-6600 FAX (076) 283-6320  
URL <http://www.nishidatetsugakukan.org/>  
E-mail [nishida-museum@city.kahoku.lg.jp](mailto:nishida-museum@city.kahoku.lg.jp)



facebook でもイベント関連情報を随時更新しています。

開館時間 ■9:00~17:00(入館は16:30まで)  
休館日 ■月曜日(祝日の場合は翌平日)、メンテナンス期間  
観覧料 ■一般300円(団体250円:20名以上) / 高齢者(65歳以上)200円  
■高校生以下無料

交通アクセス  
【車利用】北陸自動車道 [金沢東IC]-国道159号線(約20分)  
のり山海道 [白尾IC]-約5分  
【JR利用】金沢駅-IRいしかわ鉄道線・七尾線(約25分)-宇野駅-  
徒歩(約20分)-哲学館



企画展

# 枕辺の野花 西田幾多郎の妻

# ことみ 寿美

令和3年 3/23(火) ~ 9/26(日)

幾多郎と妻の寿美はいとこ同士で、仲の良い幼馴染でした。画家を父にもつ寿美は着物の見立てもよく、裁縫や料理、国文学の本を読むことが好きでした。師範学校を卒業し小学校教師(幼稚園保育)をしていた頃もあります。幾多郎と結婚してからは、貧しさ、子どもの病や死など、次々と苦労が続きます。親族間の金銭問題で家出し、激怒した義父より幾多郎と離縁させられたことも。しかし寿美は不平も言わず、子どもを育て、家を守り、常に献身的に幾多郎の学究生活を支えました。

寿美は44才のとき脳溢血で倒れ、会話はできるものの体を動かすことができなくなります。以後寝たきりの状態となりますが、幾多郎にとってよき話し相手であることは変わりませんでした。幾多郎は野の花が好きだった寿美に花を摘んできては、古ぼけた源氏物語とともに枕辺に置いていました。49歳で寿美が亡くなり、幾多郎はこんな言葉を残しています。

今は我家といふ如きものが消え失せて遠き国に  
さまよふ旅人の様な心持ちがいたします

去年の秋 窓際植えし紅椿

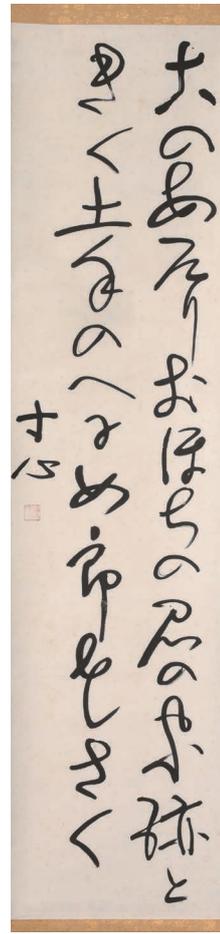
咲きか散らむ見る人なしに\*

これまであまり注目されてこなかった、世界的哲学者の人生の同伴者・寿美。その生涯と家族のエピソードを紹介します。

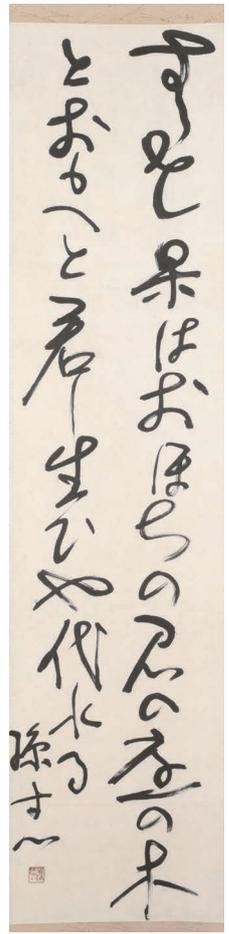
\*大正14.1.28 幾多郎が田辺元、久松真一に宛てた書簡。  
第二・三句「窓際近く植えし花」であったが同日の日記で書き換え。



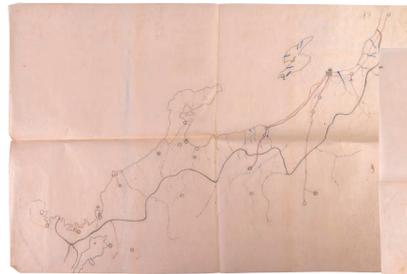
四十年ぶりにて吾をいつくしみ給ひし外祖父母の村を過りて亡くなった寿美の納骨のため、久しぶりにふるさとを訪れた幾多郎。母の実家である祖父の家(林家)があった場所を通った際に詠んだ短歌です。そこは、いとこ同士であった寿美の祖父の家でもありました。



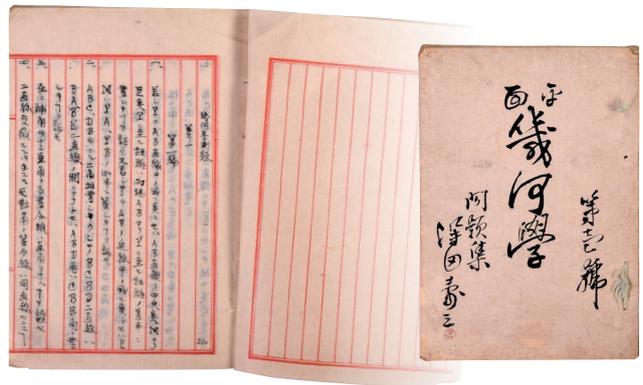
「このあたりおほちの君の家跡ときく土手のへに女郎花さく 寸心」



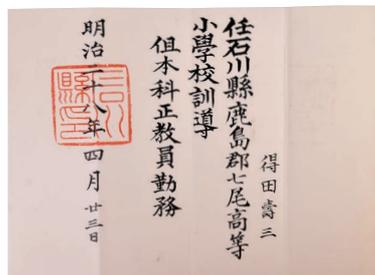
西田幾多郎書  
「無花果はおほちの君の庭の木とおもへど若し生ひや代れる 孫寸心」



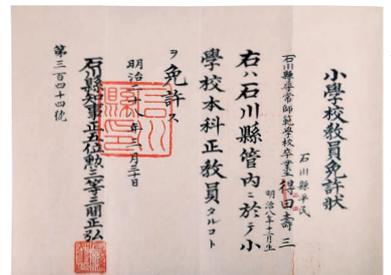
寿美製図「北陸道地図」



寿美直筆「平面幾何学問題集」



辞令「七尾高等小學校訓導」



小學校教員免許状